

Makino Memorial Garden & Museum

やま だ とし お えが えん げい しょく ぶつ

企画展

山田壽雄が描く園芸植物

まきの とみ た ろう しんらい が か
—牧野富太郎が信頼した画家—

鶉ノ羽
山田壽雄
個人蔵

センリョウ
山田壽雄
個人蔵

スカシユリの
一品種
山田壽雄
個人蔵

ハクモクレンの
一品種
山田壽雄
個人蔵

会期:2018年

10/20^土 ~ 12/24^月

10/20^土 ~ 11/18^日 の期間に

『日本産ツバキの図』(国立国会図書館蔵) 一部公開

- 企画展示: 午前9時30分~午後4時30分
- 企画展についてのお問い合わせ先:
TEL 03-6904-6403
FAX 03-6904-6404
- 開園時間: 午前9時~午後5時
- 休館日: 毎週火曜日
- E-mail: makinoteien@mist.ocn.ne.jp
- 所在地: 練馬区東大泉6-34-4

交通案内

- 西武池袋線 大泉学園駅下車(南口)徒歩5分
- JR中央線、西武新宿線からバスで「学芸大付属前」下車、徒歩3分

主なバス経路

- 荻窪駅/上井草駅から、西武バス「長久保行」
- 西荻窪駅/上石神井駅から、西武バス、関東バス「大泉学園駅行」
- 吉祥寺駅/武蔵関駅から、西武バス「新座栄行」「都民農園セコニック行」他

入場無料

練馬区立 牧野記念庭園記念館

牧野記念庭園は文化庁登録記念物(遺跡および名勝地)です



開催にあたって

やまだとしお
山田壽雄 (1882-1941) は、『牧野日本植物図鑑』(1940年)の図を担当した一人で、山田の図は、植物学者まきのとみたろう (1862-1957) の信用を最も得ていたと言われていました。また、明治・大正時代につくられた、『大日本植物志』(牧野富太郎著)や『大日本樹木誌』(中井猛之進著)などの図の制作に携わりました。山田は、植物学者の指導のもと植物図を描くことに専念し、個人として表舞台に立つことはありませんでした。記念館では、2010年のリニューアルオープン以来、山田について調査を進めてきました。その結果、牧野の郷里にある高知県立牧野植物園が所蔵する植物図の他に、東京国立博物館などに彩色図が現存することが分かりました。



ハクモクレンの一品種
山田壽雄筆 個人蔵



錦重・羽衣
山田壽雄筆 個人蔵



黒龍
山田壽雄筆 個人蔵

本展では、園芸家いしいゆうぎ (1892-1953) の依頼により、日本の園芸植物を描いた作品を初公開します。初公開の作品は、石井のご遺族が大切に保管されてきたものです。併せて、2014年に記念館で展示し好評を博した、国立国会図書館蔵『日本産ツバキの図』(『石井勇義ツバキ・サザンカ図譜』の原図)の一部を期間限定*で展示いたします。

*『日本産ツバキの図』は10月20日(土)～11月18日(日)に展示予定。

関連イベント

ボタニカルアート講座

- ・ 講師：石川美枝子氏 (植物画家)
- ・ 日時【4日制】：11月7日(水)、11月14日(水)、11月21日(水)、11月28日(水) いずれも午前10時から正午まで
- ・ 内容：本格的なボタニカルアート(植物画)の描き方を学びます。
- ・ 持ち物：透明水彩絵具、水彩筆、鉛筆、練ゴム、コンパスほか
- ・ 材料費：1,200円
- ・ 定員：16名(事前申込・抽選)
- ・ 場所：牧野記念庭園講習室

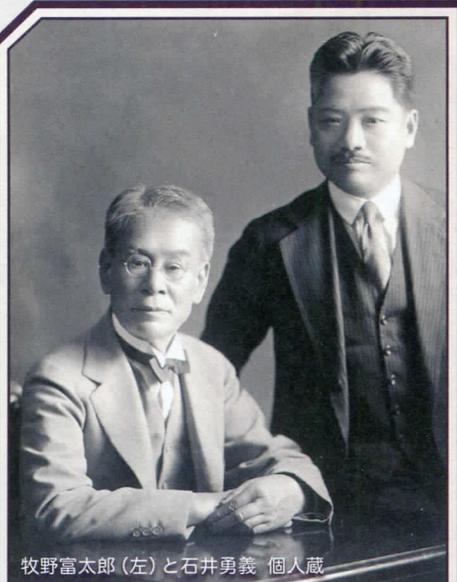
郵便往復ハガキの往信用裏面にイベント名・郵便番号・住所・氏名・電話番号を、返信用表面に郵便番号・住所・氏名を明記して10月19日(金)(必着)までにお申し込みください(〒178-0063 東京都練馬区東大泉 6-34-4 練馬区立牧野記念庭園記念館宛)。

※お申し込みは一人一通に限ります。

※2017年6月1日より、はがきの料金が52円から62円に変更となりました。お手持ちの往復はがきでご応募の際は、料金不足のないようご注意ください。料金不足のはがきでの応募は受け付けできない場合があります。

ギャラリー・トーク 学芸員による展示解説

- 日時：11月4日(日)、12月8日(土) 午後2時30分より20分程度
- 費用：無料(申込不要、定員30名)
- 場所：牧野記念庭園記念館企画展示室



牧野富太郎(左)と石井勇義 個人蔵

まきのとみたろう 牧野富太郎 (1862-1957)

1862(文久2)年4月24日に高知の佐川村に生まれる。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した植物標本は約40万枚、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼる。1926(大正15)年に渋谷から北豊島郡大泉村(現練馬区立牧野記念庭園の所在地)に移り住み、1957(昭和32)年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごした。

